



地域アマチュア無線クラブと連携した 災害通信活動の実践

中島 章夫、鈴木 哲治（杏林大学保健学部臨床工学科）



【活動目的】

災害時には、携帯電話やインターネットなどの既存通信インフラが機能不全に陥ることが知られている。本活動は、そのような状況に備え、アマチュア無線を活用した代替通信手段の確保と運用人材の育成を目的として実施した。特に、阪神・淡路大震災から30年という節目を迎え、東日本大震災や熊本地震の教訓を踏まえた地域防災力の強化が求められている。これら背景のもと、大学と地域が連携した実践的な通信体制の構築は重要な課題である。また、本学では医療機器の電波環境管理を教育しているが、実際の通信運用や災害対応訓練は十分ではない。そこで本活動では、学生主体の「杏林大学アマチュア無線クラブ（仮称）」を設立し、資格取得と地域連携を通じた「実践的災害通信活動」の展開を目指した。

【活動の実施内容】

本活動は、以下の2つの軸で展開した。

- ① 学生主体の組織構築と資格取得支援
 - Microsoft Teamsを活用し学生募集・情報共有体制を構築
 - 約10名の学生が参加し、クラブ活動を開始
 - 新入生勧誘イベントにて活動紹介（図1）
 - 参考書・問題集配布による資格取得支援
 - 学生との個別面談および、無線機実習による実践指導



図1 クラブ活動勧誘ポスター

- ② 地域連携による実践活動
 - 三鷹市防災課との協議により連携体制を構築（2026年1月27日）
 - JARD（日本アマチュア無線協会）協力の下フォーラムを開催
 - 学生・教職員・外部専門家が参加し多角的議論を実施
 - 災害通信の課題と可能性を共有
 さらに、公認団体化に向けて
 - 幹部選出
 - 申請書作成
 - 2026年3月 公認団体申請提出
 を実施し、継続的な活動基盤を整備した。

【成果・達成状況】

本活動により、以下の成果が得られた。

- 地域連携基盤の構築
 - 三鷹市防災課・無線関係者との関係構築（図2）
 - 災害通信における実践的協働の可能性を明確化
- 課題認識の共有
 - 災害時通信の脆弱性と代替手段の必要性を可視化
 - フォーラムを通じて大学内外へ広く発信
- 地域活性化への寄与
 - 地域無線クラブとの接点創出
 - 防災イベント・共同訓練への展開基盤を整備
- 課題（今後の改善点）
 - 地域団体との連携活動の量的拡大が必要
 - 継続的な共同実践の仕組み構築が課題



図2 三鷹市防災課プレゼン資料

【学生への教育的効果】

本活動は、従来の講義では得られない実践的学習機会を提供した。

- 無線通信技術の実践的理解
- 災害時の情報伝達の重要性の体感
- 医療専門職としての社会的役割の認識

さらに、

- フォーラム企画・運営による主体性・課題解決力の向上
- 地域連携を通じたコミュニケーション能力の向上
- 公認団体設立経験によるリーダーシップ・協働力の醸成

が認められた。また、資格取得支援と実機演習により、理論と実践を結びつけた教育効果が得られた。

【総括】

本活動は、「災害時通信」という社会課題に対し、大学・学生・地域が連携した実践的モデルを提示したものである。2025年度は、

- 学生組織（公認団体）の立ち上げ
- 地域（三鷹市、アマチュア無線関係者）との関係構築
- フォーラムによる災害通信の啓発

を通じて、基盤形成を達成した。

今後は、

- 公認団体としての本格運用
- 資格取得者の拡大
- 通信訓練・防災活動への継続的参画、等

を進め、地域防災に資する持続的活動へ発展させる。